

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	グループホーム独自の理念を作り、その人らしさを大切にしたい支援に向けて取り組んでいる。		理念の実践に向けて取り組み、地域との関わりを増やしていきたい。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を理解し、勉強会等を活用しながら日々実践に努めている。		今後も話し合いを重ねて実践に向けて取り組んでいきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内に掲示したり、入居時にご家族へ説明しているが、地域の人々に理解されるには至っていない。		理念をわかりやすく伝え、理解を得られるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ゴミ出しや散歩中など、近所の人に会うと挨拶を交わしている。		地域の人と交流できる機会を増やしていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の学校との交流会や花壇の花植えなどの町内行事に参加している。また、回覧板に広報誌を載せ、ホームの様子を知っていただけるようにしている。		今後も地域の行事に参加し交流を深めたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在行われていないが、検討中である。		地域の人を招いて専門的な知識や技術を提供したり、交流ができる場を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、毎年改善に向けて取り組んでいる。		今後も評価を生かして現在の状況を振り返り、レベルアップにつなげていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を行い、その内容を議事録として家族に送付し、職員も回覧している。会議での意見は検討し、取り入れるようにしている。		会議の内容について全職員に周知し、理解できるよう努めたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じて市町村担当者と連絡を取ったり、指示を仰いでいる。		市町村からの情報を全職員に伝達し、理解が深まるように努めたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業での金銭管理利用への支援をしている。制度についての知識や理解は不十分である。		勉強会などでしっかりと知識を身につけ、必要に応じて適切に支援できるように努めたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	サービス適正化委員会として定期的に勉強会を行い、防止に努めている。		今後も理解を深めて虐待防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には利用者や家族から不安や疑問、希望を聞き、説明している。また、ケアプラン・モニタリング説明時には家族の意見等も聞き、納得した上で了承していただいている。		今後も家族の意見等を聞き、納得が得られるよう十分な説明をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常での意見や不満等はその都度、傾聴し、申し送りや連絡ノートで全職員に伝わるようにしている。問題点等はカンファレンスを行い、改善に努めている。		今後も利用者からの意見・不満等、普段から聞いていく
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、写真付きの手紙で近況を報告している。また、電話や面会時にも家族に状態を報告している。		面会時や電話・手紙などを活用し個々の状況をできるだけ詳しく伝えていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情等、随時受け付けており、職員で話し合い、改善に努めている。		今後も情報交換し、意見・苦情等伺うようにする。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や連絡ノート等で意見や提案が伝わるようにしている。		意見交換の場を増やして反映させていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事の際、勤務者を増やしたり、必要ときには他階の職員が勤務に入るなど、調整を行っている。		状況の変化に対応できるよう話し合い、調整していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職時は、利用者のダメージが軽減するように職員同士、配慮している。		今後も異動や離職があった場合にはフォローしていく。また、異動や離職が最小限になるよう体制を整え、待遇改善にも働きかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間計画を立て、外部研修に参加している。また、外部研修で学んだ内容を内部研修で全職員に周知している。		今後も継続的に研修の機会を設け、知識・技術の向上に活かしたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修での情報交換や、グループホーム同士の見学会で交流する機会があり、当ホームでも取り入れていける部分があるか話し合った。		今後もグループホーム見学会等の交流の機会を設けたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	今年度、試験的にリフレッシュ休暇を実施した。勤務年数の長い一部の職員が対象であったが、今後の対象拡大を視野に入れて実施方法を検討している。		休憩時間の確保に努め、休暇制度についても検討していく。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	毎年、個人計画を立てて、日々の勤務や面談において達成状況を確認している。		仕事に意欲を持ち、学ぶことができる環境を整えたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	傾聴を心掛け、本人の不安な気持ちを受け止め、解決する努力をしている。		傾聴し、受け止める努力をしていきたい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時には家族の不安や希望を聴き、その時できる範囲での助言を行っている。入居が決まった場合には本人との面談を行い、職員に情報提供し、安心できる環境作りに努めている。		傾聴し、受け止める努力をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申込から利用に至るまでに定期的に連絡を取り、現在の状況を確認し、不安なことがあれば、他のサービス利用も含めて助言している。		必要に応じた情報を提供できるように努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の情報を得たり、馴染みの物を取り入れて、できるだけスムーズに新しい生活に馴染めるように工夫している。		本人に合った落ち着ける対応ができるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	馴染みの関係を作り、共に生活するという気持ちで日々、関わっている。		今後も馴染みの関係作りをしていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話などで、意見交換や情報提供し、共に本人を支えられるよう取り組んでいるが、家族の状況も様々であり、関わる機会の確保が難しい場合もある。		家族と情報交換をこまめにして、関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	生活歴など、できるだけ多くの情報を集め、本人と家族との関係の理解に努めている。そして、それぞれの状況に応じた良い関係が築けるように、手紙や電話・面会時を通して連絡をとっている。		利用者と家族がより良い関係でいられるよう見守っていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人の面会があり、大切な関係が保たれている。		馴染みの場所に行ったり、大切に続いている関係が続けられるように支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の相性や性格を把握して、職員が間に入ったり、調整しながらコミュニケーションを図れるように配慮している。		心地よい雰囲気作りをしていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後、家族の訪問が数回あったが、継続的な関係の維持はできていない。		退居後も関わりを続けられるように努めたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、それぞれの思いや希望の把握に努め、可能な限り、ケアに反映させている。		今後も一人ひとりと向き合い、思いを叶えられるように取り組みたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から情報を得たり、センター方式を利用して把握に努めている。		より細かな情報を収集していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察や記録・申し送りなどで現状の把握に努めている。		一人ひとりの状況や変化を見逃さず、把握できるように努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	申し送りやカンファレンスで話し合ったり、家族の意見を反映して、利用者本意のケアプランを作成できるように努めている。		今後も本人や家族と関わりながら、一人ひとりに合ったプランを作成していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にモニタリング・カンファレンスを行い、状況変化があった場合には随時カンファレンスなどで話し合い、ケアを見直している。		変化があった場合には速やかに対応していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録や申し送りなどで情報を共有し、実践に活かしている。		記録を詳しく記入し、変化に着目できるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービス利用者からグループホーム利用に移行したケースがある。1Fダイルームを使用して行事を行っている。		柔軟に対応できるように努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の学校との交流会を行ったり、ボランティアによる楽器の演奏などの催しを行っている。また、定期的に消防訓練や救命講習を行っている。		交流の機会を増やして行けるようにしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域権利擁護事業の金銭管理を利用できるよう支援している。		必要に応じて行っていく。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で地域包括支援センターの担当者と情報交換をしたり、必要に応じて連絡を取っている。		必要に応じて行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望をかかりつけ医に伝え、助言・指導を受けながら対応している。月2回の往診や毎週の健康チェック・電話連絡などで医師・看護師に相談しやすい体制ができています。		本人の不安や訴えが正確に伝わるように支援していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師の往診を受けている。また、利用者も職員も医師に相談しやすい関係を築くことができています。		今後も医師との情報交換を行い、適切な治療を受けられるように支援していく。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	担当看護師が毎週健康チェックを行い、健康管理の支援をしている。また、担当看護師とは24時間の連絡体制をとっており、電話で相談することができる。		担当看護師と馴染みある関係が定着しつつあるので、より細かな情報交換を行い、日々の健康管理に活かしたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時、病院関係者と情報交換を行っている。退院後はカンファレンスをしたり、病院から得た情報を基にリハビリを行い、安全に生活できるように努めている。		本人・家族の不安や負担が軽減できるように蜜に連絡を取り合っていく。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けて内部研修等で勉強会を行ったり、文書を用意するなどの体制を整えている。また、面会時などに家族の意向を伺っている。		本人・家族の意向を確認し、医師とも話し合いながら方針を全職員で共有していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取りについてのマニュアルを作成し、勉強会を行っている。		勉強会を重ね、スムーズに実践できるように準備をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族から情報を得て、ダメージが軽減するよう努めている。		本人が混乱しないよう、家族と情報交換・話し合いをしていく。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の近くで日誌の記入や申し送りが行われているが、記録にイニシャルを使ったり、できるだけ個人が特定される発言を控えている。傷つけない言葉を選んで声掛けをしている。		一人ひとりの誇りが守られるように声掛けや情報管理に留意していく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	それぞれに合わせた声掛けをして、できるだけ自己決定できるように支援している。		それぞれの力に合わせた働きかけをして、本人の意思を尊重した生活を送っていただく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にしよう心がけているが、職員の勤務体制などにより、希望通りに対応できないことがある。		利用者一人ひとりのペースを尊重した支援を行っていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的な訪問理美容を利用して身だしなみやおしゃれをしていただいている。		一人ひとりに合ったおしゃれを楽しんでいただけるよう気配りしていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる範囲で一緒に食事準備や後片付けをしたり、一人ひとりの状況に合わせた食事を提供している。		今後も継続して支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望のものを購入するなど、楽しんでいただいている。		本人が楽しめるように健康と嗜好に配慮して支援していく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援している。		できるだけ下剤を使わず排便コントロールできるよう一人ひとりに合った支援をしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	可能な範囲で、それぞれの体調や希望に合わせて入浴できるよう支援している。		できるだけ希望に添えるようタイミング等、工夫していく。安全にも配慮していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースに合わせて休息や安眠への支援をしている。		日中の活動や眠れないときには温かい飲物提供する等の工夫をして、薬に頼らず安眠できるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	裁縫・食事準備・塗り絵・外出など、それぞれの役割や楽しみなどができるよう支援している。		一人ひとりに合った楽しみを見つけられるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支払い・所持など、本人の能力に応じた支援している。		一人ひとりの能力に応じて買い物支援等、今後も行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や希望に添って、買い物や散歩を行っている。		個々の希望や体力に合った外出を支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事や誕生日に外出の機会を作り、家族にも参加を呼び掛けている。		行事等を利用して、普段行けないところへ行く機会を設けたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて対応している。		大切な人との関わりを維持できるよう年賀状等、取組んでみたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や友人が面会に来られ、それぞれが楽しく過ごされている。		馴染みの人が気軽に訪問できるように働きかけていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会を行い、理解を深めている。		今後も勉強会等で理解を深め、身体だけでなく言葉での抑制等も防止に努めていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上、玄関には鍵がかかっているが、居室には鍵をかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮し、所在の把握に努め、安全に配慮している。		職員が連携を取りながら、個々の利用者に向けた見守りをして、安全確保に努める。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物は職員が預かり必要に応じて貸し出す等、状況に合わせて管理している。		一人ひとりに合わせ、生活環境を整えたり、危険を防いでいく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりのリスクを理解し、事故防止に努めている。定期的に勉強会を行っている。		今後も勉強会や話し合いを通じ、事故防止に取り組みたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習や避難訓練を定期的に行っている。		今後も勉強会や話し合いを通じ、必要なときに実践できるように備えたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施し、防災時の対応について話し合いをしている。		今後も勉強会や話し合いを通じ、地域の人々への働きかけをしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時やケアプラン・モニタリングで説明し、話し合っている。		状況変化に応じてリスクを検討し、家族と話し合って情報を共有していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	記録や申し送り等で情報を共有し、変化があった場合には医師・看護師に相談して早期に対応している。		ちょっとした変化でも気付けるよう日々の関わりを多くしていく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解に努めているが、まだ不十分である。		薬の変更時など、しっかりと薬の内容を理解できるよう説明書等で確認していく。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取や乳製品・寒天等を取り入れ、予防に努めている。		下剤に頼らず排便できるよう、一人ひとりに合った工夫をしていく。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛け・介助により個々に合わせた口腔ケアを実施している。		確実に毎食後口腔ケアを行えるようにタイミングや方法を工夫していく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録や申し送りで食事量や水分量を確認しながら、個々に合わせた支援をしている。		健康を維持できるよう、現状を把握し、嗜好品を取り入れて栄養確保していく。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに添って、消毒等の対応をしている。		日常的に予防に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎日、調理用具を消毒して食中毒予防を行っている。食材の管理にも注意をしているが、食材がまとまって届く週末には、鮮度が落ちている物がある。		週末や年末年始等の食材管理を検討し、新鮮な食材提供に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	親しみやすい看板があり、花を植えている。		玄関からエレベーターの間に温かみのある飾りつけ等していきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	廊下に飾りつけや写真を貼り、季節感を楽しんでいただいている。		生花を飾ったり、ソファのカバーを工夫して季節感や手作り感を出したい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	スペースが限られており一人になることは難しいが、それぞれに好みの場所があり、くつろぐことができている。		職員が配慮し、居心地よく過ごせる場所を作っていく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れた物を置き、心地よく過ごせている。		自分で好みを伝えられない方の居室も家族と相談し、殺風景にならないようにしたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	必要に応じてこまめに換気や温度・湿度の調整を行っている。		今後も行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室・脱衣所に段差があり、危険である。階段は今年度、手すりが設置されて使いやすくなった。		個々の状況に合った対応をして、安全管理に努めていく。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの残存能力の理解に努め、それぞれに合った働きかけにより、安心して生活できるよう支援している。		今後も続けて、支援していく。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周辺に花を植え、見て楽しんだり、草取りなどの活動をしている。サンルームでは外を眺めたり談話をし、楽しんでいる。		今後も工夫して活用していきたい。

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
項目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <u>たまに</u> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <u>職員の1/3くらいが</u> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが <u>家族等の1/3くらいが</u> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・家庭的で温かい雰囲気を大切にしている。
 - ・個々の状況に応じたコミュニケーションや活動を行っている。
 - ・壁に写真や季節の飾りつけをして楽しんでいただいている。